

マイゾウ・メーノス (まあーまあー)の世界 ブラジル

ブラジルを訪問する人、ブラジルに関心のある人にお勧めする！！

梅津久 記

第9話－失礼な電話

電話の礼儀、日本では、「なになにさん宅、または、なになに会社ですか?」、「なになにですが、だれそれさんおられますか?」とまず自分の名前を言ってから、相手がだれであるか聞く、間違っていれば「どうもすみません」と電話を切るものだが。

ブラジルでは先にまず「ケン・ファーラ? (だれだ?)」と言ってくる、電話をかけておいて「だれだ?」とはないものだが「なになにです」と答え、これは間違い電話かなと思っていると、「……ガシャン!」と切られてしまう。礼儀もなにもあったものではない、このへんが基本道徳教育のないブラジルの悪い癖なのだろう。だから私は「ケン・ファーラ?」と来たら、先に「コン・ケン・エスタ・ファランド? (おまえはだれだ?)」と聞いてやる、それでも「?・?・?・?・?・? ガシャン」ではあるが、少しは相手が、何か違うなと感じていると思う。

また、個人の電話である場合でしつこくかけなおしてくる場合は、もう日本語で「もしもし、もしもし」と云って出てやる、相手は「……??? ガシャン」である。全部が全部こうではなく、十人に一人位は「メ・デスクーペ(すみません)」と言って電話を切る良心的な人もいる。

もっとひどい話としては、なんかの不注意で物を落として壊してしまったとき、「“カイウー”(が落ちた)」、もっとひどいと「“カイウ・ソージニョ”(かつてに自分から落ちた)」と言って、「すみません」と誤ることなど決してない。自分は常に正しく、相手が悪いからこうなったのだという考えが身に付いている。また宗教観からきているのだろうけど、なにか間違ったことや、悪いことがあると「デウス・ケ・キース(神が欲したから)」となってしまう、これは相手が神をだしてくるので、神を侮辱して叱るわけにもいかず、ただ啞然とするのみである。

ブラジルには「ア・リングア・セン・オツソ(舌には骨がない)」と言う言葉通り、口からでまかせのいい加減なことを言う、あるいは言葉を左右に濁して逃げ回ると言うことが多い。ブラジル人の舌は絶妙に柔らかく、絡み合っているようです。

一次回 第10話へ続くー